

令和4年度事業報告書

(令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日)

令和5年5月12日(金)

公益財団法人DNP文化振興財団

令和4年度事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

1 アーカイブ関連事業

(1) 田中一光アーカイブ

①本人作品ポスター	2,748点
版画	257点
エディトリアル	2,391点
原画類	3,542点
その他(パンフ/V.I.等)	2,901点
②資料写真	28,040点
その他資料類	2,431点
③他作家作品ポスター・版画等	1,139点
その他	159点
④蔵書	9,839点

(2) 福田繁雄ポスターアーカイブ

①本人作品ポスター	1,576点
版画	178点
原画類	978点
その他(クラフト作品等)	531点
②資料 書籍等	597点
③他作家作品ポスター・版画	2,571点

(3) 永井一正作品アーカイブ

①本人作品ポスター	911点
版画	328点
エディトリアル	1,273点
原画類	797点
その他(V.I.等)	789点
②資料 作品ポジ	646点
その他資料類	2,126点
③他作家作品ポスター・版画等	153点
その他	63点

(4) ポスターアーカイブ (令和5年3月末現在)

1 収蔵作家：244名 (国内作家124名 海外作家120名)

2 総点数：17,660点

3 令和4年度の受入れ状況：

[国内作家]

葛西薫 19点

横尾忠則 76点

若尾真一郎 64点

合計 159点

(5) アーカイブ作品の貸出

①多摩美術大学 アートテーク

「永原康史退職展 よむかたち デジタルとフィジカルをつなぐメディアデザインの実践」

会期：令和4年6月10日～6月25日

概要：藤本由紀夫+永原康史作品1点を貸出

②喜多方市美術館

「グラフィック・アート&ポスター展 コレクションを中心に」

会期：令和4年10月15日～11月13日

概要：ジョセフ・アルバース作品2点を貸出

③サンシャインシティ・ソラリウム、西武池袋本店

「街中まるごとデザインミュージアムー池袋」

会期：令和4年11月1日～11月6日

概要：所蔵作家20名の作22点を貸出

2 展示関連事業

(1) ギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) の展示

〒104-0061 中央区銀座 7-7-2 DNP 銀座ビル 1 階、地下 1 階
日曜・祝日休館、開館時間：午前 11：00～午後 7：00、入場無料

■第 387 回 TDC 2022

会 期：2022 年 4 月 1 日～4 月 30 日

入場者：6,974 名、一日平均 279 名

東京タイプディレクターズクラブが主催するタイポグラフィ表現を中心とするグラフィックデザインの国際コンペティション「東京 TDC 賞 2021」の展覧会です。国内外からの応募 3,750 作品から受賞・ノミネート作品を含めた約 130 点を展示しました。



■第 388 回 佐藤卓 TSDO 展〈in LIFE〉

会 期：2022 年 5 月 16 日～6 月 30 日

入場者：16,105 名、一日平均 403 名

グラフィックデザイナー、佐藤卓氏と同氏のデザイン会社 TSDO の展覧会です。ギャラリー 1 階に自主制作作品、地階には TSDO のデザインワークを展示しました。また佐藤氏出演の解説動画を財団 YouTube 公式チャンネルで配信したほか、銀座周辺で TSDO がデザインを手がけた 3 箇所の商業施設を来場者が実際に歩き、現場に置いた QR コードをスマートフォンで読み取ると、作家解説がその場で聞けるオンライン・サービスを実施しました。

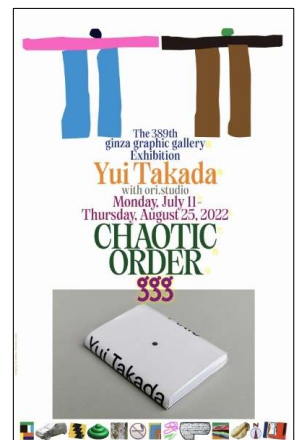


■第 389 回 高田唯 混沌とした秩序

会 期：2022 年 7 月 11 日～8 月 25 日

入場者：5,870 名、一日平均 154 名

グラフィックデザイナー、高田唯氏の個展です。ギャラリー 1 階に高田氏がデザインしたオリジナルの凧を約 100 点展示し、地階には北京のデザイン事務所 ori.studio と共同制作した作品集『AXIS』を中心に、厳選した過去作品を紹介しました。「混沌とした秩序」というタイトルのとおり、つねに新しい表現を模索する高田氏の現在地点を紹介する内容となりました。また、高田氏による展覧会解説動画を財団 YouTube 公式チャンネルで配信しました。



■第390回 細谷巖 突き抜ける気配

会 期：2022年9月5日～10月24日

入場者：5,578名、一日平均139名

広告デザイン界の重鎮、細谷巖氏の個展です。細谷氏は1953年にライトパブリシティに入社し、現在もなお第一線で活躍しています。本展では日宣美展出品のデビュー作「Oscar Peterson Quartet」(1955)をはじめ、バイクのスピード感を表現した「ヤマハオートバイ」ポスター(1961)、世界デザイン会議(1960)で国内外の建築家やデザイナーたちの注目を集めたパンフレット『び』などの代表作を展示しました。



■第391回 日本のアートディレクション展 2022

会 期：2022年11月1日～11月30日

入場者：6,328名、一日平均264名

毎年恒例のADC賞の受賞作品展。グランプリを受賞した大貫卓也氏「HIROSHIMA APPEALS 2021」をはじめ、2021年5月から2022年6月までに発表された約6,000点の応募作から受賞作品とノミネート作品を展示しました。会期中、大貫卓也氏、中村至男氏、菊地敦己氏によるギャラリートークをYouTubeでライブ配信しました。

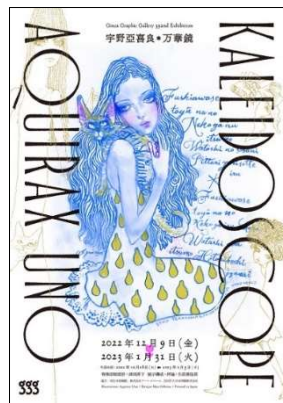


■第392回 宇野亞喜良 万華鏡

会 期：2022年12月9日～2023年1月31日

入場者：9,246名、一日平均250名

イラストレーター、グラフィックデザイナーとして1950年代から半世紀以上、時代の第一線で活躍してきた宇野亞喜良氏の個展です。ギャラリー1階に俳句と少女をテーマにした原画を、津田淳子氏(グラフィック社)による特殊印刷設計で多彩に表現した実験的な作品を展示しました。地階には、刈谷市美術館所蔵の1960年代のポスター約50点を展示しました。



■第393回 動物会議 緊急大集合!

会 期：2023年2月9日～3月25日

入場者：7,279名、一日平均202名

動物をモチーフに環境問題や平和を取り扱ったポスター約120点を展示しました。タイトルは、子どもたちのために戦争のない世界をつくろうと動物たちが立ち上がる、ドイツの詩人・作家、エーリッヒ・ケストナーの絵本『動物会議』(1949)にちなみます。なお本展は、2022年に国際交流基金ローマ日本文化会館で開催され、その後、同基金のパリ日本文化会館へ巡回した展覧会を再構成したものです。



(2) 京都 d d d ギャラリー (d d d) の展示

〒600-8411 京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町 620 COCON 烏丸 3F
(京都市右京区太秦上刑部町 10 より移転)

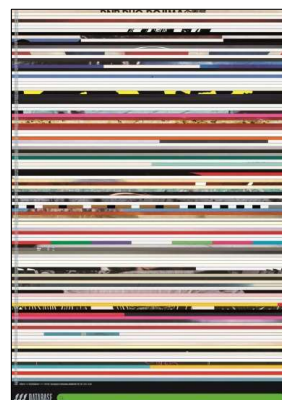
月曜・祝日の翌日休館、開館時間：午前 11：00～午後 7：00、入場無料

■第 232 回 ddd DATABASE 1991-2022

会 期：2022 年 7 月 23 日～9 月 25 日

入場者：3,689 名、一日平均 67 名

2022 年 7 月に京都・四条烏丸の複合商業施設 COCON 烏丸に移転した ddd の移転後、初の展覧会として、ddd の過去 30 年間の歩みを振り返る展覧会を開催しました。全 231 回の展覧会情報を網羅したウェブサイトとポスター・チラシのリアル展示をとおして、過去のリソースを未来のグラフィックデザインに活用するための場をつくりました。



■第 233 回 FormSWISS (フォーム・スイス)

会 期：2022 年 10 月 5 日～11 月 20 日

入場者：2,860 名、一日平均 72 名

デザインディレクター、丸山新氏が主宰するデザインプラットフォーム & Form (アンドフォーム) が企画し、2021 年に東京・神戸で開催されたスイスのビジュアルコミュニケーションデザインにフォーカスしたデザイン展「Form SWISS」を再構成して開催しました。スイスの次世代を代表するデザイナーの作品に加えて、教育機関や美術館などへのインタビュー映像も展示し、スイスのデザイン、教育、文化、価値観を多角的に紹介しました。



■第 234 回 GRAPHIC CUBE -フィルムポスター DNP グラフィックデザイン・アーカイブより

会 期：2022 年 11 月 29 日～2023 年 1 月 15 日

入場者：2,187 名、一日平均 58 名

グラフィックの多面性を立方体になぞらえ、さまざまなテーマで DNP グラフィックデザイン・アーカイブ所蔵作品を紹介する展覧会シリーズ「GRAPHIC CUBE」の第 1 回展として開催しました。第 1 回は映画ポスターを特集。和田誠、横尾 忠則、葛西薫、木村恒久、栗津潔、日比野克彦などの作品 55 点を通して、デザイナーたちが時代の空気を反映する映画をどのように 1 枚のポスターの上に表現しているのかを検証しました。



■第 235 回 ppp groovisions

会 期： 2023 年 1 月 24 日～3 月 12 日

入場者： 3,871 名、一日平均 97 名

特定の年齢や性別、国籍を設定しない人型グラフィックデザイン・システム「チャッピー」で知られる、グローヴィジョンズの展覧会です。グローヴィジョンズは 1993 年に京都で誕生しましたが、本展が初の地元開催でした。タイトルの「ppp」は「ddd」を天地逆にしたもので、グラフィックを中心にしながらもジャンル横断的な活動を行ってきた、彼らの多様なデザインワークを、方向を問わずに紹介するというコンセプトを表現しました。展示も作品を床面に設置する実験的なインスタレーションを試みました。



■第 236 回 エディション・ノルト | ファクトリー-dddd：被包摂、絡合、派生物

会 期： 2023 年 3 月 21 日～5 月 21 日

入場者： 1,580 名、一日平均 54 名（4 月 23 日現在）

デザイナー、秋山伸氏が主宰するアートブック出版レーベル、エディション・ノルトの展覧会です。エディション・ノルトは新潟県南魚沼市を拠点に、全国から訪れる協力者たちと共同生活をしながら、身近な材料で、手づくりの本を制作するというユニークな活動で知られ、その作品は国内外のアートブック・フェアや展覧会で高く評価されています。本展では、会場を工房に見立て、来場者も実際に本を制作できるという実験的な展示を行いました。展覧会名の「dddd」は、ギャラリー名の ddd に「d」を足して、継続する生産を想起させるように意図したものです。



(3) CCGA現代グラフィックアートセンターの展示

〒962-0711 福島県須賀川市塩田宮田 1

月曜・祝日の翌日休館、開館時間：午前 10：00～午後 5：00

入館料：一般 300 円／学生 200 円／小学生以下と 65 才以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

※ CCGA現代グラフィックアートセンターは令和 4 年 12 月 18 日をもって展示事業を終了しました。

■第 86 回 DNP グラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展 IX－葛西薫 POSTERS since 1973

会 期：2022 年 3 月 1 日～6 月 12 日

入場者：881 名 一日平均 10 名

サントリーの広告をはじめ、パッケージや CI、本の装丁などで知られるアートディレクター、葛西薫氏の個展です。葛西作品の魅力は、受け手が想像を膨らませる余地を含み、広告やポスターの向こう側に世界や物語が広がる包容力が感じられることです。本展では、広告デザインとしての客観的アプローチと、葛西薫氏のクリエイティビティや職人気質が巧みなバランスを取りながら作りだされた、1970 年代から近作までのポスターの代表作を展示し、葛西デザインの軌跡をたどりました。

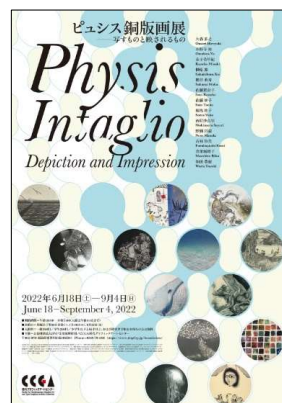


■第 87 回 ピュシス銅版画展一写すものと映されるもの

会 期：2022 年 6 月 18 日～9 月 4 日

入場者：660 名 一日平均 10 名

東日本大震災から 10 年を機に、東北を代表する美術大学である東北芸術工科大学出身の銅版画家たちによるグループ展を開催しました。展覧会タイトルの「ピュシス」はギリシャ語で自然や生成を意味し、自然が生命を育むように若い作家たちが豊かに作品を作り出していくことを願って名づけられました。版画芸術の可能性に向き合う作家たちの「いま」を鋭く映し出す機会となりました。



■第 88 回 タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション名品展

会 期：2022 年 9 月 10 日～12 月 18 日

入場者：1,053 名 一日平均 13 名

展示事業終了を記念して、タイラーグラフィックス・アーカイブコレクションの名品を展示しました。タイラーグラフィックスは 1960 年代から 70 年代の版画復興を代表するアメリカの版画工房です。そこで制作した作家たちには、ロイ・リキテンスタイン、ロバート・マザウェル、ジェームズ・ローゼンクイスト、フランク・ステラなどアメリカ現代美術を代表するアーティストたちが含まれます。展覧会では、



ジェームズ・ローゼンクイストの幅 10m を超える《時の塵》と、フランク・ステラの幅 7m を超える《泉》という超大作 2 点を、CCGA では初めて同時出品しました。

● 各展示に当たっては、三会場とも、新型コロナウイルス感染症予防として、以下の対策を行いました。

- ① ギャラリー入口での非接触温度計による検温。発熱・体調不良の方の入館禁止。
- ② ギャラリー入口にアルコール消毒液を設置し、スタッフによる手指消毒要請。
- ③ 来場者のマスク着用義務。
- ④ 展示室内での大声の会話禁止。
- ⑤ 混雑時の入場者の人数制限。
- ⑥ ギャラリー入口扉の定期的な開放および空調設備による換気の強化。
- ⑦ 受付スタッフのマスク・フェースシールド・手袋着用。
- ⑧ 受付カウンターへのパーティション設置。
- ⑨ ドアノブ・手すりのこまめな消毒。

3 教育・普及関連事業

(1) ギャラリートーク（セミナー）

財団の YouTube 公式チャンネルで、展覧会作家トークイベントや解説動画等、注目クリエイターたちによる対談の音声コンテンツを配信しました。

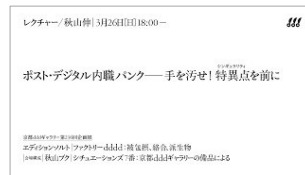
ギンザ・グラフィック・ギャラリー（g g g）

- 「佐藤卓 TSDO <in LIFE>」 動画配信
- 「佐藤卓 TSDO <in LIFE>」 TSDO WORK WALK in GINZA
- 「佐藤卓 TSDO <in LIFE>」 トークイベント動画配信
- 「高田唯混沌とした秩序」 トークイベント動画配信
- 「日本のアートディレクション 2022」 トークイベント
（出演：大貫卓也、中村至男、菊地敦己）



京都 d d d ギャラリー（d d d）

- 「ddd DATABASE 展」 ギャラリー移転告知動画
- 「FormSWISS」 展解説動画（出演：丸山新、中村竜治）
- 「フィルムポスター」 展解説動画（出演：CCGA 学芸員）
- 「ppp groovisions」 展紹介動画
- 「ファクトリー-ddd」 展オンラインレクチャー（出演：秋山伸）
- 「ファクトリー-ddd」 展 リモートトーク
（出演：秋山伸、マキシム・コルニエ（ori.studio））



音声対談企画

- 第5弾 池田光宏 × 佐々木俊 × 中西洋子 × 落合晴香
- 第6弾 葛西敏彦 × 大原大次郎
- 第7弾 大塚いちお × 池田光宏
- 第8弾 安田登 × 中川学
- 第9弾 和田由里子 × 守田篤史 × 宮後優子



(2) 図録等の発行と頒布

令和4年度は以下の4点を発行しました。

ggg Books

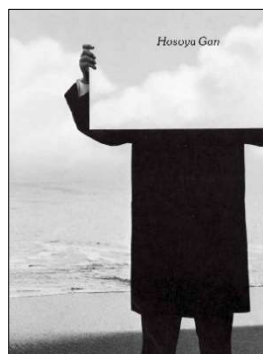
- 『ggg Books 133 高田唯』
2010年の展覧会ポスター「FOR STOCKISTS EXHIBITION」から2022年の ggg 企画展ポスターまで、自主制作のアートワークを含めた代表作を掲載。
19×13.5 cm、64 ページ、価格：1,282 円（税込）



展覧会作品集

高精彩プリモアート印刷（特殊なインクジェット・プリンターによる高品位印刷）作品集

- 『Taku Satoh TSDO: in LIFE』
デザイン：TSDO、写真：ホンマタカシ
38×28 cm、30 ページ、価格：5,500 円（税込）
- 『Hosoya Gan』
デザイン・執筆：矢萩喜従郎
38×28 cm、30 ページ、価格：5,500 円（税込）
- 『Aquirax Uno』
デザイン：大島依提亜、執筆：矢萩喜従郎
38×28 cm、30 ページ、価格：5,500 円（税込）



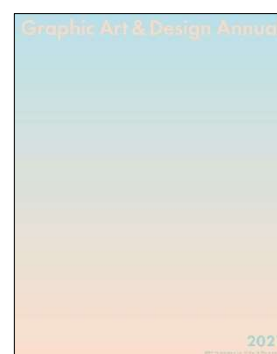
(3) アニュアルレポート

令和3年4月から令和4年3月までの活動をまとめたアニュアルレポート『Graphic Art & Design Annual 2021』を発行しました。

表紙デザイン：葛西薫

序文：葛西薫

A4 変型判、92 ページ、非売品



(4) 版画工房

CCGAで開催した「ピュシス銅版画展」関連事業として、アクアチント講座と令和3年度につづいて松尾芭蕉の俳句と木口木版画を組み合わせた句画集制作講座の2つを開催しました。

●「アクアチント講座」

日時： 8月20日、8月21日、8月27日、8月28日
全4日間 10:00～16:00

講師： 真栄城理子（銅版画家）

概要： 腐蝕銅版画の一種で、明暗の階調表現が可能な技法であるアクアチントの制作を学びました。

受講者数：6名



●「木口木版と活版印刷で句画集づくり」

日時： 10月22日、10月29日、11月12日、11月19日、
11月26日、12月3日 全6日間 10:00～16:00

講師： 野口和洋氏（木口木版画家）、
竹村渉氏・若林亜美氏（活版印刷工房まんまる〇）

概要： 松尾芭蕉が「おくのほそ道」の途上、福島で詠んだ俳句に合わせて木口木版画を制作し、工房に設置のアルビオン・プレスを使った活版印刷と組み合わせて、外箱付きの本格的な句画集を制作しました。

受講者数：6名



4 国際交流関連事業

(1) AGI (国際グラフィック連盟) 日本会員事務局サポート

コロナ禍で2年連続中止となっていたAGI総会が、2022年9月18日～23日にイタリア・トリエステで開催され、日本会員事務局として参加しました。今回、日本会員は不参加でしたが、ヨーロッパの会員を中心に多数の参加があり、盛況でした。



(2) 香港「永井一正」展企画協力

デザイナー、アラン・チャン氏が主宰する香港のギャラリー、K11 MUSEAで永井一正氏の展覧会「永井一正：瞬間・永恒」が開催され、企画に協力しました。展覧会ではポスターと版画作品の原画などが出品され、幅広い年齢層の来場者9,220名を集めました。



(3) 国際交流基金主催 スポーツポスター展巡回に参加

国際交流基金の海外拠点を巡回するスポーツポスター展に、作品選定、作品輸送などで協力しました。本年は、2022年9月1日から10月8日まで、国際交流基金パリ日本文化会館にて開催されました。パリ日本文化会館では会期中、15,488名の来場者がありました。なお2023年は4月から9月に国際交流基金トロント日本文化センターで開催予定です。



(4) 国際交流基金ローマ・パリ日本文化会館「動物会議」展に参加

国際交流基金ローマ日本文化会館で、2022年5月20日～7月29日に開催されたポスター展に参加しました。企画はミラノ大学准教授のロッセッラ・メネガッツォ氏と財団が共同で行い、エーリッヒ・ケストナーの『動物会議』(1949)から着想した動物モチーフのポスター103点を紹介し、環境問題や平和を訴える内容の展覧会となりました。同展は、パリ日本文化会館に2023年1月24日～3月25日の会期で規模を縮小して巡回したほか、gggでも同じテーマで再構成した「動物会議 緊急大集合!!」展を開催しました。



（４）国際交流基金ケルン日本文化会館「食のデザイン」展に協力

国際交流基金ケルン日本文化会館において 2023 年 1 月 13 日～4 月 15 日の会期で開催された、食にまつわるポスター展に協力しました。同展は 2020 年に CCGA 現代アートグラフィックセンターと京都 ddd ギャラリーで開催した「食のグラフィックデザイン」展を再構成したもので、ケルン日本文化会館では 1957 年から 2016 年に制作された 24 作家の計 50 点を紹介しました。会期初日にはドイツ・ポスター美術館ルネ・グローナート館長による講演会を実施し、あわせて日本の食文化を紹介するイベントも行われました。



5 研究助成関連事業

(1) 2022年 グラフィック文化に関する学術研究助成

令和4年度は下記の要領で実施し、新規採択12件、継続助成11件、計10,000,200円の助成金を交付しました。

募集テーマ： A部門 グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする学術研究

B部門 グラフィック文化に関するアーカイブをテーマとする研究

募集期間： 令和4年4月1日～6月17日

助成対象： 研究機関に在籍する研究者・大学院生・学芸員等及びそれに準じる研究能力のある者。

応募数： 59件（A部門国内43件・海外3件／B部門国内12件・海外1件）

選考： 7月～9月 一次審査（申請書類による書類審査）

9月23日 二次審査（DNP銀座ビルにて）

採択研究： 新規採択12件（助成総額524万200円）

継続助成11件（助成総額476万円）

詳細は次頁参照

審査委員： 井口 寿乃 埼玉大学大学院教授

加治屋 健司 東京大学大学院教授

菊池 裕子 金沢美術工芸大学教授

建畠 哲 多摩美術大学学長、埼玉県立近代美術館館長

永原 康史 多摩美術大学教授、グラフィックデザイナー

並木 誠士 京都工芸繊維大学特定教授、京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長

前田 富士男 中部大学客員教授、慶應義塾大学名誉教授

※五十音順、敬称略、令和5年3月末時点



●令和4年度採択研究（12件）

No.	部 門	研究テーマ	研究者	1年目助成額	継続
1	A	記念用プリント・テキスタイルにみる近代： 国民国家・伝統・エスニシティーの表象	門田 園子 お茶の水女子大学 特別研究員	500,000 円	○
2	A	戦前期日本のポスター史、デザイン文化史	田島 奈都子 青梅市立美術館 学芸員	499,200 円	○
3	A	スイスにおけるタイプライター用活字の製 造史	ソフィー・ヴィートリスバッハ ローザンヌ州立美術学校 助手	500,000 円	
4	A	ポスタルメディアにみる女子スポーツの身 体表象：戦前期日本の運動会を中心として	崎田 嘉寛 北海道大学大学院教育学研究院 准教授	450,000 円	○
5	A	教育者としての上野リッチー戦後デザイン への影響—	牧田 久美 京都市立芸術大学芸術資源研究 センター 客員研究員	400,000 円	○
6	A	監視記録社会におけるストリートスナップ の現状と表現可能性	遠藤 祐輔 大阪大学大学院言語文化研究科 博士前期課程	250,000 円	
7	A	工場と芸術—戦後日本社会における絵画 と生の近接性	鯖江 秀樹 京都精華大学 准教授	460,000 円	○
8	A	「原爆の図」をめぐるグラフィック文化/ 1950年代木版画作品について	後藤 秀聖 公益財団法人原爆の図丸木美術 館 学芸員	400,000 円	
9	B	「アノニマスな記録」としての写真：1960 年代後半から 70 年代前半日本における写 真のリアリズムについて	久後 香純 ニューヨーク州立ビンガムトン 大学 博士課程大学院生	400,000 円	○
10	B	国内の地域映像アーカイブが所蔵するノン フィルム資料の概要調査	石原 香絵 NPO 法人映画保存協会 代表	500,000 円	
11	B	デジタル時代におけるキリシタン版：デジ タル手法による「キリシタン版」探索の可 能性と限界に関する考察	モリス ジェームズ・ハリー 早稲田大学 准教授	481,000 円	○
12	B	復興する東北沿岸部で行われたリフォトグ ラフィー・プロジェクトのアーカイブ	マクラウド ギャリー 筑波大学 准教授	400,000 円	○
				5,240,200 円	

●令和3年度採択研究継続助成（11件）

No.	部門	研究テーマ	研究者	交付額 下段は昨年度交付額
1	A	日本工房の対外宣伝グラフ雑誌『CANTON』と1939年広東における日中宣伝戦	陳 鶯 京都工芸繊維大学 研究生	400,000 円 (500,000 円)
2	A	イタリア未来派における写真受容：写真実験「フォトディナミズム」の総体解明	角田 かるあ 慶応義塾大学大学院 後期博士課程	500,000 円 (500,000 円)
3	A	版画とグラフィックデザインの交錯と境界：1950-70年代の日本を中心に	中尾 優衣 東京国立近代美術館（国立工芸館）主任研究員	400,000 円 (400,000 円)
4	A	風景論争の研究：原将人の作品と批評を中心に	佐々木 友輔 鳥取大学地域学部 講師	400,000 円 (400,000 円)
5	A	シピ・ピネルズの編集デザインと教育活動：20世紀米国における女性デザイナーの葛藤と超克	櫻井 かのこ 岐阜大学 大学院生	160,000 円 (340,000 円)
6	A	国家表象としてのグラフィック：ナチ期ドイツのベルリンにおける日本の印刷文化展を中心に	江口 みなみ 筑波大学 研究員	500,000 円 (500,000 円)
7	A	リチャード・ハミルトンのインクジェットデジタルプリントの考察：美術作品における絵画、写真、印刷の比較検討とともに	吉村 典子 宮城学院女子大学 教授	400,000 円 (400,000 円)
8	B	ルイス・サリヴァンの装飾における社会思想の表現—装飾図案集とその草稿の分析を通して	倉田 慧一 東京大学 大学院博士後期課程	500,000 円 (500,000 円)
9	B	若江漢字撮影によるヨーゼフ・ボイス・ドキュメントのアーカイブ構築と公開促進	三本松 倫代 神奈川県立近代美術館 主任学芸員	500,000 円 (500,000 円)
10	B	松澤宥作品および所蔵資料のアーカイブ化とデジタルアーカイブ公開に関する研究	木内 真由美 長野県立美術館 主査学芸員	500,000 円 (500,000 円)
11	B	地域資源としての「染型紙」のアーカイブ化および活用についての実践的研究—大崎市岩出山および羽後街道沿いに現存する染型紙を対象として—	平岡 善浩 宮城大学 教授，事業構想学群副学群長，基盤教育群長	500,000 円 (500,000 円)

令和4年度継続助成 助成金交付額合計 4,760,000 円

合計 10,000,200 円

(2) 令和4年度協賛助成実績 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

	対象	主催	年月	金額	備考
1	須賀川地区高等学校美術部研修会への助成	須賀川地区高等学校美術部連盟	2022/11	60,000円	例年、須賀川地区高等学校美術部連盟によりCCGAで開催される研修会。
2	第33回田善顕彰版画展へ協賛	須賀川商工会議所青年部	2023/2	50,000円	須賀川出身の江戸期の銅版画家、亜欧堂田善顕彰を目的とする、須賀川市内小中学生対象の版画コンクール。例年継続。

(3) 会員参加

以下の団体の会員となっています。

1. 東京イラストレーターズ・ソサイエティ / 賛助会員
2. 東京アートディレクターズクラブ / 賛助会員
3. 公益社団法人日本グラフィックデザイン協会 / 賛助会員
4. 東京タイプディレクターズクラブ / 法人・団体会員
5. 公益財団法人助成財団センター / 会員
6. 東京アート&ライブ構想実行委員会 / 会員

6 会議の開催

●第4回評議員選定委員会

(令和4年4月8日)

DNP市谷加賀町ビル 18階 東京都新宿区市谷加賀町1-1-1

第1号議案 議長の選任について

第2号議案 評議員の選任について

●第33回理事会

(令和4年5月22日)

理事会決議の省略の方法による(定款第37条第2項)

提案(1) 令和3年度(4月1日~3月31日)事業報告および収支決算について

提案(2) 評議員会の招集について

●第14回 評議員会

(令和4年6月8日)

DNP市谷加賀町ビル 17階 会議室 東京都新宿区市谷加賀町1-1-1

およびオンライン会議システム(T e a m s)

第1号議案 議長の選任について(決議事項)

第2号議案 議事録署名人の選出について(決議事項)

第3号議案 令和3年度事業報告書について(報告事項)

第4号議案 令和3年度計算書類等について(決議事項)

第5号議案 任期満了に伴う理事の選任について(決議事項)

第6号議案 京都d d dギャラリーの移転について(報告事項)

●第34回 理事会

(令和4年6月8日)

DNP市谷加賀町ビル 17階 会議室 東京都新宿区市谷加賀町1-1-1

およびオンライン会議システム(T e a m s)

第1号議案 理事長および専務理事の選定について(決議事項)

第2号議案 令和3年度利益相反取引の承認について(決議事項)

第3号議案 理事長および専務理事の業務執行状況について(報告事項)

●第35回 理事会

(令和5年1月24日)

理事会決議の省略の方法による(定款第37条第2項)

提案(1) 現代グラフィックアートセンターにおける展示事業の終了について

提案(2) 臨時の評議員会(定款変更決議)の開催について

●第15回 評議員会

(令和5年2月13日)

評議員会決議の省略の方法による(定款第21条第3項)

提案(1) 定款の変更

●第36回理事会

(令和5年3月13日)

DNP市谷加賀町ビル 17階 会議室 東京都新宿区市谷加賀町1-1-1

およびオンライン会議システム(T e a m s)

第1号議案 令和5年度寄付金の受入について(決議事項)

第2号議案 令和5年度事業計画、予算計画について(決議事項)

第3号議案 令和5年度利益相反取引の承認について(決議事項)

第4号議案 令和5年度資金調達及び設備投資の承認について(決議事項)

第5号議案 田中一光アーカイブの京都への移転について(報告事項)

第6号議案 研究助成プログラムの助成金交付について(決議事項)

第7号議案 令和5年度協賛計画について(決議事項)

第8号議案 理事長及び専務理事の業務執行状況について(報告事項)

以上